



# 営農情報

第50号 平成28年8月 5日

## 「あまおう」8月の管理

南筑後普及指導センター  
福岡大城農業協同組合

**10a 当たり収量 5 t 以上を目指しましょう**

この資料は平成28年7月20日現在の登録資料に基づいて作成されています。農薬使用の際にはラベルや袋に記載されている適用作物などの登録内容と有効年月を確認してください。

### 現在の状況と気象の経過

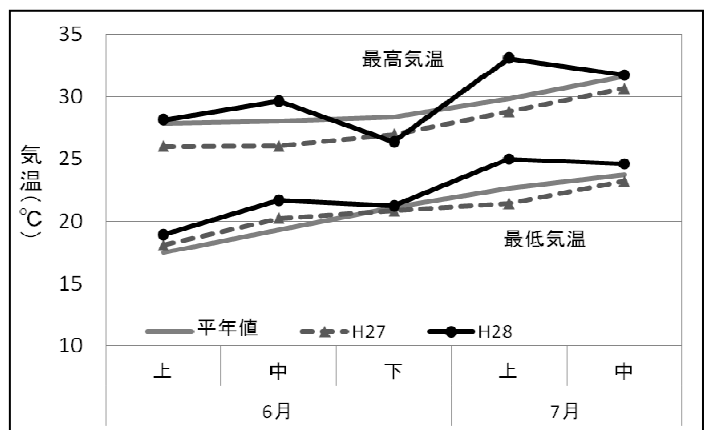
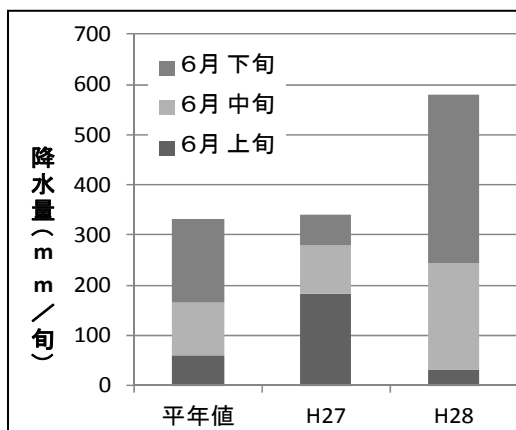
#### 【生育概況】

6月の連続した降雨の影響（平年降水量の1.7倍）で、培土内の水分停滞による根傷みが見られ、葉の展開が停滞している苗が一部見受けられました。梅雨明け後、高温・晴天が続いたことにより、苗の生育も回復傾向で推移しています。

#### 【病害虫発生状況】

7月中下旬頃より炭そ病の病斑が散見されています。6月から7月にかけて気温が高く推移した影響もあり、今後発病株の増加が懸念されます。またアブラムシ類、輪斑病の発生も見られます。特に現在、ハダニ類の発生が昨年や平年より多く、今後も多い予報です

#### 【気象の経過】（アメダス久留米より）



### 気象予報と今後の見通し

#### 【気象予報】

福岡管区气象台が発表した1か月予報及び3か月予報は次のようになっています。

- 1か月予報（九州北部地方 予報期間: 7月30日～8月29日 発表日7月28日）

[気 温]	20	40	40	凡例:
[降 水 量]	20	40	40	■ 低い(少ない) ■ 平年並 □ 高い(多い)
[日照時間]	40	40	20	

- 3か月予報（九州北部地方 8月から10月までの天候見通し 発表日7月25日）

[気 温]			
<8月>	20	30	50
<9月>	20	30	50
<10月>	20	30	50

## 【今後の見通し】

今後、8月から9月にかけて、平年より気温が高い予報となっていることから、頂果房の花芽分化が遅くなる可能性があります。また、炭そ病や疫病の発生拡大が懸念されます。

### 【懸案事項】

- ①花芽分化の遅延
- ②育苗期後半の窒素切れ
- ③炭そ病、疫病の発生拡大

### 【対策】

- ①寒冷紗で被覆することで、苗の温度を下げる。  
**被覆する時期**  
 (株冷)：株冷入庫前  
 (夜冷)：処理期間中(但し、日中35℃以上の高温になる場合)  
 (普通ポット)：8月下旬から
- ②窒素の効き具合を観察して、不足している場合は灌注や葉面散布によって追肥を行う。
- ③定期的な薬剤散布、発病株とその周辺株のほ場外への持ち出し。

## 育苗管理

### 【作型】

- クラウン径が8mm未満の苗は、無理して早い作型にせず、苗の充実を優先させる。

### 「あまおう」の作型別、処理期間と定植日及び収穫開始の目安

作型 (予冷庫利用)	入庫	出庫	定植予定日	陽光処理	収穫開始
株冷Ⅲ型	8月20日	9月12日	9月12日～	3回	11月上旬
株冷Ⅳ型	8月23日	9月15日	9月15日～	2回	11月中旬
株冷Ⅴ型	9月1日	9月19日	9月19日～	1回	11月下旬
夜冷Ⅲ型	8月18日	9月10日	9月10～14日	—	11月上～中旬
夜冷Ⅳ型	8月23日	9月15日	9月15～18日	—	11月中旬
普通ポット			9月20～25日	—	12月上～中旬
普通晩期(厳寒期安定出荷を目的)			9月26～28日	—	12月下旬

### 【施肥】

- クラウン径が8mm以上の充実した苗を目標とする。
- 根傷みしている場合は培土への追肥を控え、根が回復するまで葉面散布を行う。
- 作型に応じて最終追肥時期を決め、計画的に施肥を行う。

### ● 最終追肥時期の目安

作型	3.5寸鉢	3寸鉢
夜冷(8月中下旬処理開始)	処理10日前	処理5日前
株冷Ⅲ型(8月20日入庫)	8月1日	8月5日
株冷Ⅳ型(8月23日入庫)	8月5日	8月10日
株冷Ⅴ型(9月1日入庫)	8月10日	8月15日
普通ポット	8月25日	8月30日

※ポットが小型なほど、薄い濃度で間隔を短くし、肥料が切れすぎないようにする。

(裏面へつづく)

## 【 葉かき 】

- 1回当たりの摘葉数は2枚以内とする。
- 葉かき後の葉数は3.5枚程度となるようにする。
- 葉かき作業直後は、「炭そ病」の予防散布を必ず行う（傷口からの感染防止）。
- 最終摘葉時期の目安と葉数

作型	最終摘葉時期と摘葉後の葉数
株冷	入庫10日前に3～3.5枚
夜冷	処理開始直前に3.5枚
普通ポット	8月30日頃に3～3.5枚

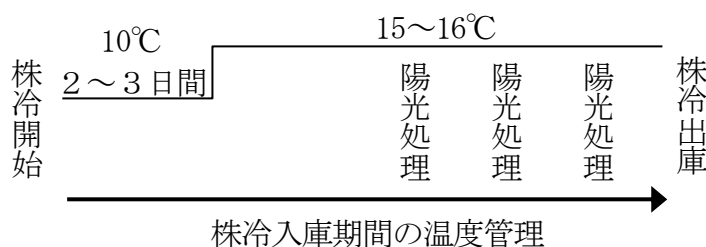
## ● 株冷入庫10日前の体内窒素濃度による管理

体内窒素濃度	対 策
25ppm 以下	葉面散布 2回：OKF-1 1,000倍、メリット青 500倍など
25～100ppm	葉面散布 1回：OKF-1 1,000倍、メリット青 500倍など
100～250ppm	かん水のみ
250～500ppm	PK剤の葉面散布 1～2回 入庫2～3日前に試験紙判定で100ppm以下になっているか再調査する
500ppm 以上	遅い作型に変更する

## 【 低温処理 】

### ○ 株冷処理

- 株冷処理の間に苗が消耗するため、充実した苗を使用する。
- 株冷入庫時に葉柄中の窒素濃度が25～50ppmになるよう、肥培管理を行う。
- 冷蔵庫内の湿度に注意し、湿度90%以上になるようにする。特に、冷風が直接当たる部分は乾きやすいので、ダンボールや厚紙で風よけをする。



### ● 陽光処理

- ① 株の消耗を抑えるため、晴天日に苗を庫外に出し、日光に当てる。入庫15日前後に1回目を行い、その後2～3日間隔で計3回程度行う。
- ② 出庫時間は1日8時間以内とし、乾燥しないようにかん水を行う。
- ③ 冷蔵庫内の温度上昇を防ぐため、株の温度が下がった夕方（午後6時頃）に再入庫する。

### ○ 夜冷処理

- 処理期間中に肥料切れしないよう、処理開始時には150ppm程度の体内窒素を確保する
- 入庫時の庫内温度は13℃±2℃とする。

- 入庫時間の目安は、午前10時に出庫、午後6時に入庫とする。
- 気温が高い場合、入庫が早いと庫内の温度が下がりにくいいため、入庫時刻を遅くする。
- 処理期間中には、かん水や薬剤散布は行うが、摘葉はしない。

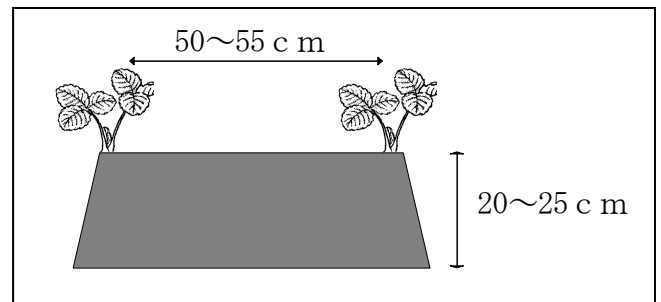
## 病虫害防除

- 薬剤散布は、早朝もしくは夕方散布を基本とする（日中の高温時は薬害発生のリスクが高まる）。
- 本田にハダニ類、うどんこ病、炭そ病を持ち込まないために、早期作型では低温処理直前（最終葉かき後）の防除を徹底する。うどんこ病・炭そ病の罹病株は入庫しない。

## 本田準備

### 【 畝立て 】

- 畝は、根が張るスペースを確保し排水性を高めるため、20～25cm程度に立てることが望ましい。
- 耕耘時、ロータリーの爪に土が付かない程度の土壤水分状態で耕耘する。
- 畝立て後はビニルのべた掛けを行う。



## 最新情報 「ナミハダニの薬剤感受性検定結果」

ナミハダニは薬剤抵抗性の発達が著しく、年々既存の薬剤の防除効果は低下しています。今年県内9地点で採取したナミハダニに対して、薬剤感受性検定を福岡県農林業総合試験場病害虫部が実施した結果、各種薬剤に対する感受性の低下が確認されました。



今後も既存の薬剤での防除を行う必要があります。ナミハダニの薬剤抵抗性を発達させないために、①同一薬剤の連用を避ける、②気門封鎖剤や天敵を活用する。③薬剤の付着むらを軽減するため展着剤を加用する。④葉裏までかかるように噴口を選定し、十分な液量で散布することが必要です。

	補正死虫率(%)						
	コロマイト 水和剤 2,000倍	アフーム 乳剤 2,000倍	カネマイト フロアブル 1,000倍	スターマイト フロアブル 2,000倍	ダニサラバ フロアブル 1,000倍	ダブルフェース フロアブル 2,000倍	マイトコーネ フロアブル 1,000倍
卵・孵化幼虫	94	100	100	96	65	91	86
雌成虫	30	90	59	63	31	57	80

(県内9地点平均)

出典：福岡県農林総試病害虫部調査

**農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう！**